

手書きもじ、楽しむ

文字には、人それぞれの個性がある。

「上手い下手は関係ない。書くという行為は、そのものが面白い」

そんな思いを広く伝えるため、

もじゅうさんは、講座・教室や地域のイベント出演など、

さまざまな活動を続けている。

コンテストでの入賞経験が書道継続の力に

文字を見るだけで、誰が書いたかわかる。年賀状に添えられた短いメッセージで、送り主との思い出が頭に浮かぶ。そんな経験はないだろうか。直筆の言葉は、読む前から郷愁を呼び、気持ちを柔らかくしてくれる。

しかし、自身で書こうと思うと難しい。「下手で恥ずかしい」「パソコンやスマートフォンなどの機械を使つた方がきれいだし、手軽にできる」。そんな理由から、つい直筆を避けてしまう。「無理して美しさを追求する必要はありません。癖は個性です。書くのを楽しんで、『これが自分の文字だ』と、堂々と見せられる人を増やしたいですね」と話すのは、市内外で幅広く活動するもじゅうさん。「文字で遊ぶ」からとった名前の通り、イラストの中に言葉を忍ばせたり、点描字をつくつたがきかれいだし、手軽にできる。

なぜ、もじゅうさんは書道を始めたのか。それは、2008年に就職した。津市川合公民館活動推進員、成美地区社会福祉協議会事務長を務める調理師免許、高所作業者運転資格、危険物取扱者（乙4）など多くの資格を持ち、趣味も雅楽（龍笛・篠笛）、よさこいなど多岐にわたる。



自由型もじ職人 もじゅう
柴田雅史さん

1960年5月1日生まれ。津西高校、専修大学経営学部経営学科を経て、津市が本社の企業に入社。2008年にもじゅうとして活動を始め、2013年に早期退職した。津市川合公民館活動推進員、成美地区社会福祉協議会事務長を務める。調理師免許、高所作業者運転資格、危険物取扱者（乙4）など多くの資格を持ち、趣味も雅楽（龍笛・篠笛）、よさこいなど多岐にわたる。

詳しくは
ウェブサイトを
チェック



現在の活動について考えるようになつたのは、30代後半ごろ。「人をよろこばせることをしたい」と考えて最初に思い付いたのは、やはり文字だった。賞状書士の資格を取得し、48歳から活動をスタートさせた。もじゅうさんは「定年後に始動の予定で準備をしていましたが、ある日、60歳になつて後悔している自分の姿が頭に浮かんだんです」と当時を振り返る。「やりたいなら、年を取るのを待つ必要はない」と、53歳で会社を退職。自由な作品制作から、依頼を受けての書・ロゴ制作、イベントでのパフォーマンス、展示会など次々活動を展開した。

市内公民館での「アート文字講座」、亀山市で実施する「楽しむ文字サーカル」、地域の子ども向け「ふち文字（塗り文字）体験」など、文字の魅力を伝える場も多い。「日本語特にひらがなはみんなが関わる日本文化です。楽器や茶道、華道のように特別に勉強をしていくなくても、日常の中で触れている。効率重視の仕事をのぞいて、可能な限り手で書くという習慣をつけほしい。日本や、郷土への愛を深めている。効率重視の仕事をのぞいて、きつかけのひとつになれば」ともじゅう

に目を奪われた。

現在の活動について考えるようになつたのは、30代後半ごろ。「人をよろこばせることをしたい」と考えて最初に思い付いたのは、やはり文字だった。賞状書士の資格を取得し、48歳から活動をスタートさせた。もじゅうさんは

「定年後に始動の予定で準備をしていましたが、ある日、60歳になつて後悔している自分の姿が頭に浮かんだんです」と当時を振り返る。「やりたいなら、年を取るのを待つ必要はない」と、53歳で会社を退職。自由な作品制作から、依頼を受けての書・ロゴ制作、イベントでのパフォーマンス、展示会など次々活動を展開した。

市内公民館での「アート文字講座」、

亀山市で実施する「楽しむ文字サーカル」、地域の子ども向け「ふち文字（塗り文字）体験」など、文字の魅力を伝える場も多い。「日本語特にひらがなはみんなが関わる日本文化です。楽器や茶道、華道のように特別に勉強をしていくなくても、日常の中で触れている。効率重視の仕事をのぞいて、可能な限り手で書くという習慣をつけほしい。日本や、郷土への愛を深めている。効率重視の仕事をのぞいて、きつかけのひとつになれば」ともじゅう

が

奪われた。

もじゅうさんは、読む前から郷愁を呼び、気持ちを柔らかくしてくれる。

しかし、自身で書こうと思うと難し

い。「下手で恥ずかしい」「パソコンやスマートフォンなどの機械を使つた方がきれいだし、手軽にできる」。そん

な理由から、つい直筆を避けてしまう。

「無理して美しさを追求する必要は

ありません。癖は個性です。書くのを

楽しんで、『これが自分の文字だ』と、

堂々と見せられる人を増やしたいです

ね」と話すのは、市内外で幅広く活動するもじゅうさん。「文字で遊ぶ」からとった名前の通り、イラストの中に言葉を忍ばせたり、点描字をつくつたがきかれいだし、手軽にできる。

なぜ、もじゅうさんは書道を始めたのか。それは、2008年に就職した。津市川合公民館活動推進員、成美地区社会福祉協議会事務長を務める調理師免許、高所作業者運転資格、危険物取扱者（乙4）など多くの資格を持ち、趣味も雅楽（龍笛・篠笛）、よさこいなど多岐にわたる。

詳しくは
ウェブサイトを
チェック



り、道具にはこだわらず、表現方法は多岐にわたる。

文字に興味を持ち始めたのは、小学生のとき。習字コンテストでの入賞がきっかけだ。勉強でもスポーツでもかなわなかつた同級生より上位に入り、「戦える分野があった。これなら勝てる！」とよろこんだ。小学校では近くの教室へ、中学・高校では通信の習字教室に通い、大学でも書道研究会に入会。書道を長年続けた。

個性を伸ばす講座で
文字の面白さを伝える

大学卒業後は書道から離れるが、就職した企業で総務・人事に配属され、書道経験から香典や祝儀、年賀状の宛名書きを任せられた。手書きの書類を見る機会が多く、一目で誰の書類かわかるようになつたという。一人ひとりの癖や多様なパターンに魅了され、まち歩くと、ついつい看板や広告の文字

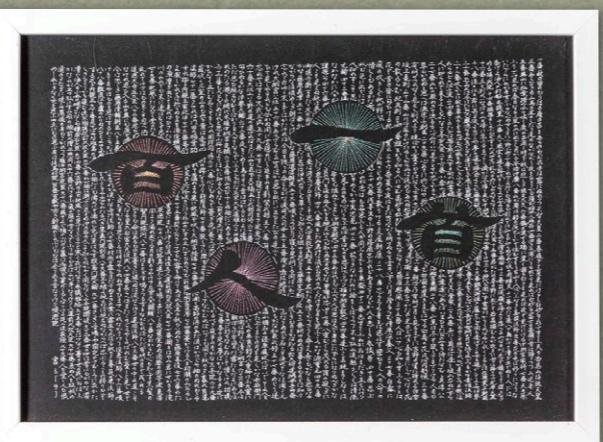
挑戦する姿が人を動かす

うさん。教室では、生徒の作品に朱書きをしない。自作を表現方法のひとつとして紹介しながら、「かつこよくしたいならここを長くしよう」など、生徒に合った楽しみ方を提案する。

行動が夢への近道

現在は、自身の作品をパッケージにして、作詞作曲も手掛けるCD制作に挑戦中。すべて手書きの小説出版や、出会った人々と交流しながら作品制作をして各地をまわる全国行脚など、夢も多い。もじゅうさんは「お金のやりくりや健康の維持は大変ですが、60歳を迎えた今、とても充実しているんですね」と目を輝かせた。

大切なのは行動すること。「良い結果を出さなければいけない」「自分には無理」と尻込みするのではなく、挑戦そのものを楽しむ。「何でもできてしまうやましい」とよくいわれますが、本当は、誰でも、何だってできるんですよ」ともじゅうさん。次々と夢を実現していく姿に背中を押され、新たな一步を踏み出す人もいるだろう。ゆたかな発想で周囲も自分も笑顔にするもじゅうさんから、今後も目が離せない。



←命名色紙では、名前の横に、漢字の意味をヒントにもじゅうさんが考えた文章を添える

↓「つうび～す」には、ハートを忍ばせる。直前まで「どうやって書こうか」と悩んでいたとは思えない出来栄えだ



←依頼があればハンコも作成。津市川合公民館長である松本英子さんの「英」の字をハンコにした



右) 宇宙のイラストの中には、「もじゅう」「宇宙」の言葉が隠されている。すべて点描の遊び心満載な作品。上) 「百人一首」の位置以外は、下書きをせずに制作。百首すべてがバランスよく収まっていることに驚かされる。下) 「和」をテーマとしたアート文字。近年は点描字「てんてん文字」に熱中し、多くの作品を手掛けている

